

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

| | | | |
|-------|--------------------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| 課題番号 | 18H05244 | 研究期間 | 平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度 |
| 研究課題名 | 次世代医療用高温超伝導スケルトン・サイクロトロン設計原理・開発基盤の確立 | 研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在) | 石山 敦士 (早稲田大学・理工学術院・教授) |

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

| 評価 | | 評価基準 |
|---|----|---|
| | A+ | 想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ | A | 順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | A- | 概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である |
| | B | 研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C | 研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| <p>(意見等)</p> <p>本研究は、高温超伝導スケルトン・サイクロトロン用のマルチコイルシステムの設計原理とコイル化技術の確立を目的としている。</p> <p>これまでに、目標とするコイルシステムの設計・製作・評価に関して、基礎技術の開発と評価手法を着実に進展させている。特に、新たに設計製作した REBCO コイルの試験では、熱的な安定性を十分に満足できることを実証しており、国際的にも大きな成果である。以上のことから、順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれるものと評価する。</p> | | |